

第15回全国X線CT技術サミット報告

CT innovation

—最新医療を支えるCT技術—

スローガン **がんばろう日本! がんばろう東北!**

「第15回全国X線CT技術サミット」が8月6日(土)、福岡国際会議場で開催された(共催: 全国X線CT技術サミット, 九州CT研究会, 第一三共株式会社, 協力: インナービジョン, 後援: (社)日本放射線技術学会九州部会, 九州地域放射線技術師会)。沖縄(第13回)に続く, 九州地方での開催となる。今回のテーマは「CT innovation—最新医療を支えるCT技術—」。さらに, 3月11日の東日本大震災を受けて, スローガン「がんばろう日本! がんばろう東北!」が掲げられ, 会場ロビーでは義援金も受け付けられた。当番世話人は小川正人氏(産業医科大学病院)が務め, 実行委員長の坂本 崇氏(済生会熊本病院)はじめ実行委員や九州CT研究会スタッフが万全の準備と運営を行った。当日は, 台風の影響で沖縄からの参加が取りやめになったものの, 全国から717名が参加し, 会場は盛況を博した。

今回は, 逐次近似法を用いた新しい画像再構成法(IR法)やdual energy, monochromatic imagingといった最新技術にスポットを当て, 基礎講演, シンポジウム, ワークショップを中心にプログラムが構成された。総合司会は, 満園裕樹氏(北九州市立八幡病院)が務めた。

開会挨拶では, 代表世話人の辻岡勝美氏(藤田保健衛生大学)が, 臨床に生かせる充実したプログラム内容なのでしっかりと学んでほしいと述べるとともに, 7月16日に急逝した前・世話人の鈴木憲二氏(前・福島県立医科大学附属病院放射線部技師長, 福島県放射線技師会会長)への哀悼の意を表し, 生前の活動をまとめたビデオが流されて鈴木氏の業績や人柄を偲んだ。

午前中に行われた2題の基礎講演では, 管電圧の基礎や, 最近注目されているIR法を中心とした画像再構

全国X線CT技術サミット代表世話人/
次回第16回当番世話人 第15回当番世話人 第15回実行委員長

総合司会



満園裕樹氏
(北九州市立八幡病院)



辻岡勝美氏
(藤田保健衛生大学)



小川正人氏
(産業医科大学病院)



坂本 崇氏
(済生会熊本病院)

成法についての講演が行われた。

ランチョンセミナーでは, 協賛メーカー7社によるCT装置や画像再構成法, 解析アプリケーションなど, 最新技術のプレゼンテーションが行われた。

午後のシンポジウムでは, はじめに東日本大震災の犠牲者へ黙祷が捧げられた。「CT技術のinnovation—新しい再構成法の現状と課題—」をテーマに, 4名の発表者が主要メーカーの新しい画像再構成法について, 性能評価や臨床使用経験を報告した。ディスカッションでは, 被ばく低減の切り札として期待されるIR法の適切な性能評価のためにも, 画像評価法の確立が急務であることが再確認された。

最後に行われたワークショップでは, 「臨床技術のinnovation—新しい技術の現状と課題—」をテーマに, CT装置の多列化, 高速化によって可能となった新しい技術や検査について, 課題なども含めて, 5題の発表が行われた。明日の臨床に, また, 将来の機器選定にもかかわる内容ということもあり, 発表後の質疑応答では, 臨床に即した具体的な質問が多く見られた。

* * *

次回の第16回全国X線CT技術サミットは, 2012年8月4日(土)に愛知県産業労働センター(ウインクあいち)で開催される予定である。当番世話人を辻岡勝美氏, 実行委員長を井田義宏氏(藤田保健衛生大学病院)が務める。



福岡国際会議場



受付風景



会場風景



一般演題(ポスター展示)会場



◆プログラム

第15回 全国X線CT技術サミット

基礎講演 1

座長：八町 淳 長野赤十字病院

「CTの管電圧特性
—線質が画質や被ばくへ及ぼす影響について—」

辻岡勝美 藤田保健衛生大学



座長：八町 淳 氏 辻岡勝美 氏

基礎講演 2

座長：宮下宗治 耳鼻咽喉科麻生病院

「画像再構成の基礎と将来展望
—FBP法とIR法—」

市川勝弘 金沢大学



座長：宮下宗治 氏 市川勝弘 氏

シンポジウム

CT技術のinnovation—新しい再構成法の現状と課題—

座長：小川正人 産業医科大学病院

大沢一彰 済生会中和病院

1. ASiR/Veo 杉澤浩一 慶應義塾大学病院
2. iDose 下之坊俊明 熊本大学医学部附属病院
3. Intelli IP 川又郁夫 東海大学医学部附属八王子病院
4. AIDR 石原敏裕 国立病院機構埼玉病院



座長：小川正人 氏 / 大沢一彰 氏



杉澤浩一 氏 下之坊俊明 氏 川又郁夫 氏 石原敏裕 氏

ワークショップ

臨床技術のinnovation—新しい技術の現状と課題—

座長：石風呂 実 広島大学病院

平野 透 札幌医科大学附属病院

1. CT colonography 坂本 崇 済生会熊本病院
2. 脾臓のPerfusion 小泉幸司 京都大学医学部附属病院
3. 肺動静脈分離撮影 井田義宏 藤田保健衛生大学病院
4. Dual energy/Monochromatic imaging (2管球CT)
高田忠徳 金沢大学附属病院
5. Dual energy/Monochromatic imaging (1管球CT)
佐藤和彦 大阪大学医学部附属病院



座長：石風呂 実 氏 / 平野 透 氏



坂本 崇 氏 小泉幸司 氏 井田義宏 氏



高田忠徳 氏 佐藤和彦 氏

【お知らせ】

全国X線CT技術サミットのWebサイトが開設されます。10月公開をめざして準備中ですので、ご期待ください (URL <http://www.ctsummit.jp>)。

◆ 機器展示 & ポスター発表

本サミットでは、機器展示（14社）とランチョンセミナー：メーカープレゼンテーション（7題）が行われた。また、第12回から始まった一般演題（ポスター発表）は、前回の倍を超える34題が寄せられ、同サミットへの関心の高さがうかがわれた。審査の結果、金賞、銀賞、銅賞、デザイン賞の4演題が選出され、表彰式でメダルが授与された。



協賛企業の機器展示会場



一般演題（ポスター発表）授賞式：
（左から、辻岡氏、銅賞・坂本友禎氏、
金賞・片山竜也氏、銀賞・作田啓太氏、
デザイン賞・高橋正司氏）

● 受賞ポスター

【金賞】34「X線ビーム幅が出力線量へ及ぼす影響—イメージングプレートを使用したX線ビーム幅および出力線量の測定—」
産業医科大学病院・片山竜也氏 ほか

【銀賞】19「仮想単色X線画像（Monoenergetic imaging：MI）を用いた冠動脈CTステント内腔評価の基礎的検討—心拍数による影響—」
金沢大学附属病院・作田啓太氏

【銅賞】9「死因不明社会における心臓CTの有用性」
広島市立安佐市民病院・坂本友禎氏

【デザイン賞】16「64列MDCTによる被ばく線量低減技術を用いた心臓形態及び新機能検査に関するプロトコルの検討」
県立広島病院・高橋正司氏 ほか

協賛企業一覧（五十音順）

アクロバイオ、AZE、アミン、エス・アール、コニカミノルタヘルスケア、ザイオソフト、サイバネットシステム、シーメンス・ジャパン、GEヘルスケア・ジャパン、テクマトリックス、東芝メディカルシステムズ、東洋メディック、日本メドラッド、根本杏林堂、日立メディコ、フィリップスエレクトロニクスジャパン、富士フイルムメディカル、横河医療ソリューションズ

第15回 全国X線CT技術サミット開催に寄せて

■ 福岡から勇気と希望を！

「がんばろう日本！ がんばろう東北！ 多くの人々に勇気と希望を！」

2011年8月6日、第15回全国X線CT技術サミットを福岡で、上記を大会スローガンに開催した。ご承知のように、本年3月11日に発生した東日本大震災の影響で、日本放射線技術学会（JSRT）をはじめ多くの学会や研究会が自粛されるなか、一時は中止することも視野に入れての準備となったが、東北・北関東東地区はもとより、全国を福岡から活気づけようという強い意思を持っての開催となった。

当日は、台風の影響のため沖縄のみなさまが参加できなかったことは残念であったが、全国から700名を超える参加があり、1000名収容可能な福岡国際会場はほぼ満席状態で、まさに“熱いCTサミット”“勇気を与えるCTサミット”となった。暑い中、ご参加くださった全国のみなさまにこの場をお借りしてお礼申し上げます。

さて、昨今のCTのトピックスと言えば、“逐次近似法を利用した画像再構成法”と“仮想単色X線CT画像（monochromatic imaging）”が挙げられる。この2つの内容は、CTの従来の概念を大きく変えるものであり、技術者にとって把握すべき内容であることから、大会テーマを「CT innovation—最新医療を支えるCT技術—」として、前者をシンポジウムで、後者については、その他の最新臨床技術である“CT colonography”や“臓臓のPerfusion CT”“肺動静脈分離撮影”とともにワークショップで取り上げた。さらに、最新技術を理解する上で必要不可欠となる基礎を織り交ぜ、“CTの専門技術者に相応しいサミット”を目標にプログラムを構成した。

辻岡勝美代表世話人の挨拶の後、長年CTの研究や本サミットの発展にご尽力いただいた元福島県立医科大学附属病院の

鈴木憲二先生のご逝去に伴う追悼式を行い、厳かに幕が開いた。辻岡氏、市川勝弘氏の基礎講演、ランチョンセミナーと続き、展示発表や機器展示では、十分な時間を設けたため多くの人でにぎわっていた。午後のシンポジウムでは、開始前に東日本大震災で被災されたみなさまへの黙祷を行ったが、依然として福島第一原発事故が収拾していないことや、折しもこの日が広島原爆記念日であったこともあり、改めて“被ばく低減の意義”を考えさせられた。続くワークショップでは、最新の臨床技術ということもあり活発な討議が行われた。

女子サッカー日本代表“なでしこジャパン”がワールドカップで世界一となった余韻のなか、今回のサミットも、多くの人々に勇気と希望を与え、全国を活気づけたいという思いで開催したが、その思いは伝わったものと思う。そして、この思いは次回名古屋での第16回全国X線CT技術サミットへ引き継がれた。

最後に、第15回全国X線CT技術サミットは参加者717名、一般演題（展示発表）34題、機器展示企業数14社、ランチョンセミナー協力企業数7社、広告協賛13社、情報交換会参加者数110名という、地方開催としては異例の規模で開催され、大成功であったことをご報告するとともに、今回の開催にあたり、ご支援いただいたサミット世話人のみなさま、ご支援いただいた九州地域放射線技師会様、（社）日本放射線技術学会九州部会様、多大なご協力をいただいた第一三共（株）様、機器展示、広告協賛を戴いた企業様、ならびに盛り上げてくださった講師、座長、一般演題演者のみなさま、さらには運営にご尽力いただいた実行委員、九州CT研究会世話人諸氏に、深く、深く感謝申し上げます。

当番世話人

小川 正人 産業医科大学病院放射線部